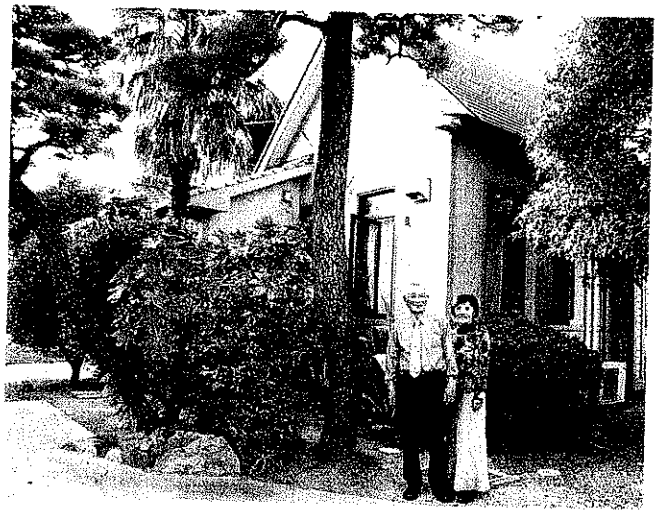
佐賀新聞　平成20年10月27日(月)19

佐大スケッチ

学長宿舎　同窓会が奔走し保存

大学から徒歩で十分ほどの所に学長宿舎がある。この建物は、関東大震災が起きた大正十二年、佐賀大学の前身、旧制佐賀高等学校の校長宿舎として建てられ、昭和二十四年に佐賀大学の学のものになった。歴代学長や事務局長が住んでいたが、老朽化が進み、平成八年以降誰も住まなかったため、平成十一年に県行政監察事務所から売却処分を求められた。

すぐに、利用についての学内検討委員会が設けられた。学外からは、同窓会が宿舎保存の要望書を提出。旧制佐高の同窓会も「維持、保存」を総会で決議、他の団体からも「保存」の声が上がった。その後、寄付や国の出資で改修工事が行われ、再び住めるように。現在、長谷川学長夫妻が住んでいる。



学生時代の思い出が残る学長宿舎に住む長谷川学長夫妻

先日宿舎を訪問した。外観も含めて東側は洋風、西側は和風の造りになっていて、玄関は大小二つある。十六畳ある二階の和室は「公の部屋」で、居間と台所などはプライベートな空間かなと思った。学長に住み心地を聞くと「少し使い勝手が悪い」といわれるが、必要最小限の荷物で生活できるとのこと。

学長は現在、通勤は自転車だ。この宿舎へ入ろうと思った動機の一つに自動車を使わないことでCO_2を削減するという目的があったそうだ。また、この建物には思い出があるという。昭和四十三年ごろ、組合の委員長として二階にある洋間で当時の学長と一対一で交渉したことがあるとのこと。

宿舎は佐賀県の近代化遺産に登録されている。階段の手すり部分や二階の床の間や廊下の天井などは建設当時のままである。

（佐賀大学理事・北島悦子）

※次回は十一月十日の予定です。